

旭川市居宅介護支援事業所等連絡協議会

医療連携推進事業研修会（2013.3.15・大雪クリスタルホール）

医療と介護の地域連携を めざして ～ 十勝連携の会 の実践 ～



十勝連携の会 幹事 笠松信幸

【勤務先】老人保健施設ケアセンター白樺

（社会福祉士、主任介護支援専門員）

今日お話しすること

- あらためて**連携**が重視される理由
- **十勝連携の会** のとりくみ
- **十勝型地域連携システム** がめざすもの



医療と介護の連携～その背景

■世界トップの長寿超高齢社会

75歳以上高齢者**10%** → **25%** (2055年)

→ 高まる医療必要度

客観的要因

■社会保障給付費抑制 (医療・介護)

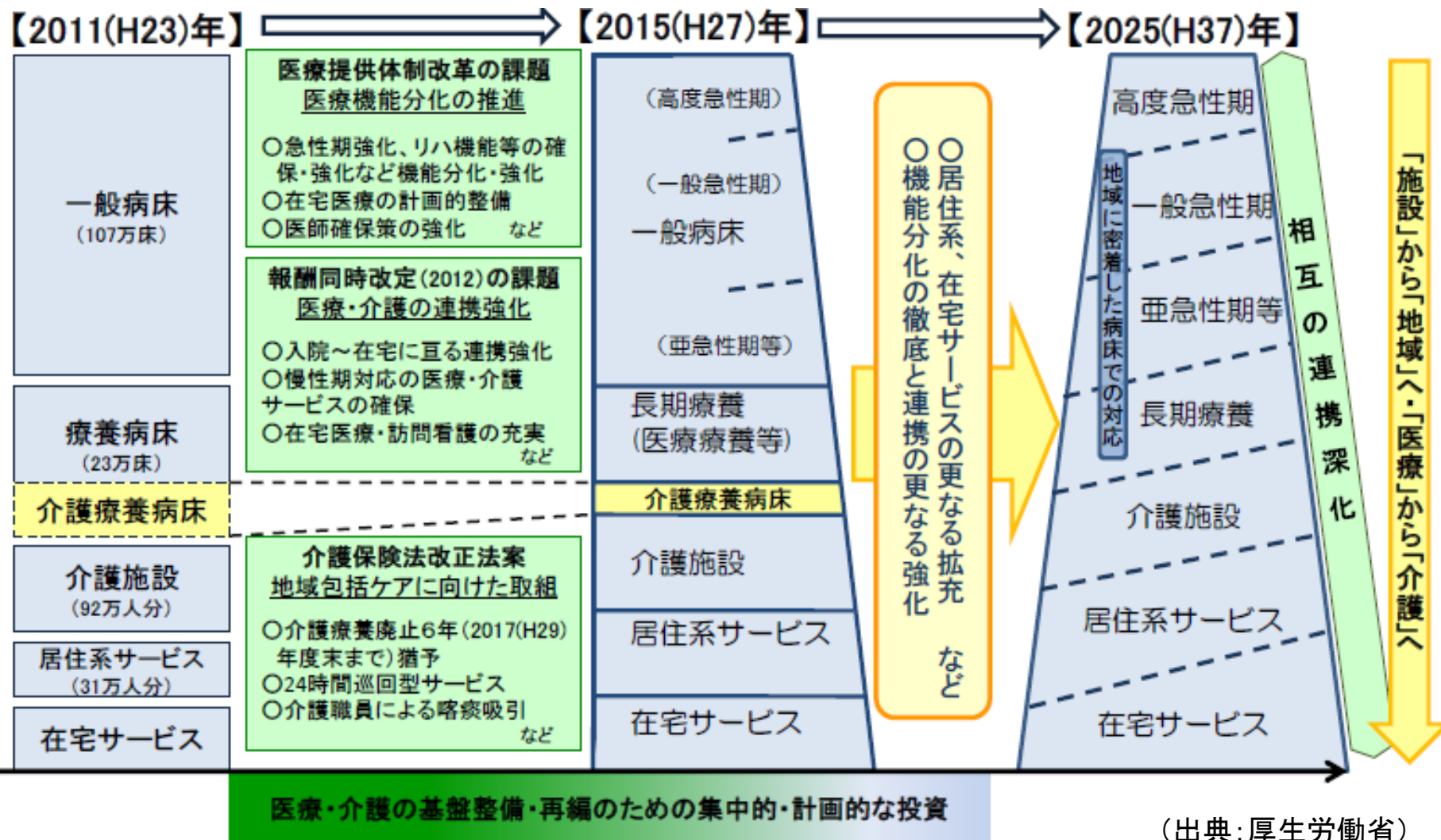
「社会保障と税の一体改革」

政策的要因

創る

地域連携 ↔ 地域が変わる

医療から介護へ 在宅へ



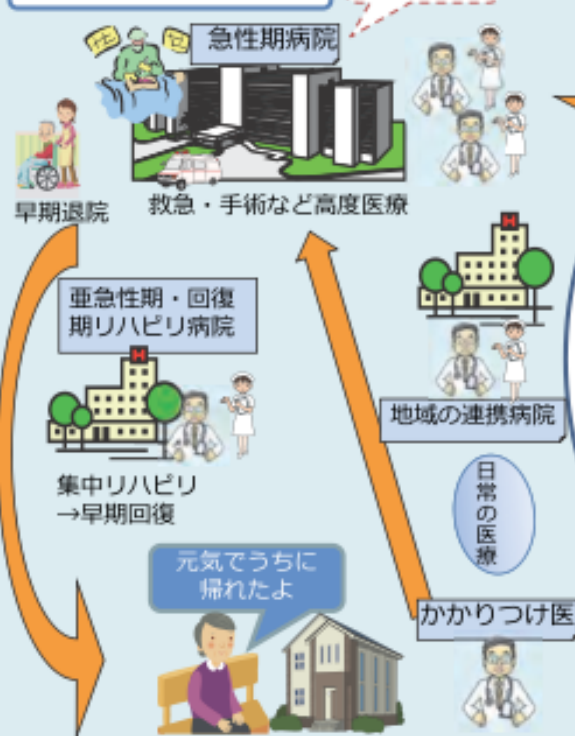
厚生労働省の地域包括ケア

- 高度急性期への医療資源集中投入などの入院医療強化
- 在宅医療の充実、地域包括ケアシステムの構築

どこに住んでいても、その人にとって適切な医療・介護サービスが受けられる社会へ

改革のイメージ

病気になったら



包括的 マネジメント

- ・在宅医療連携拠点
- ・地域包括支援センター
- ・ケアマネジャー



- ・医療から介護への円滑な移行促進
- ・相談業務やサービスのコーディネート

退院したら

<地域包括ケアシステム>
(人口1万人の場合)

医療

- ・在宅医療等 (1日当たり 17→29人分)
- ・訪問看護 (1日当たり 31→51人分)

住まい

自宅・ケア付き高齢者住宅

介護

- ・グループホーム (17→37人分)
- ・小規模多機能 (0.25か所→2か所)
- ・デイサービス など
- ・介護人材 (219→364~383人)
- ・24時間対応の定期巡回・随時対応サービス (15人分)

通院
在宅医療・訪問看護

通所
訪問介護・看護

老人クラブ・自治会・介護予防・生活支援 等

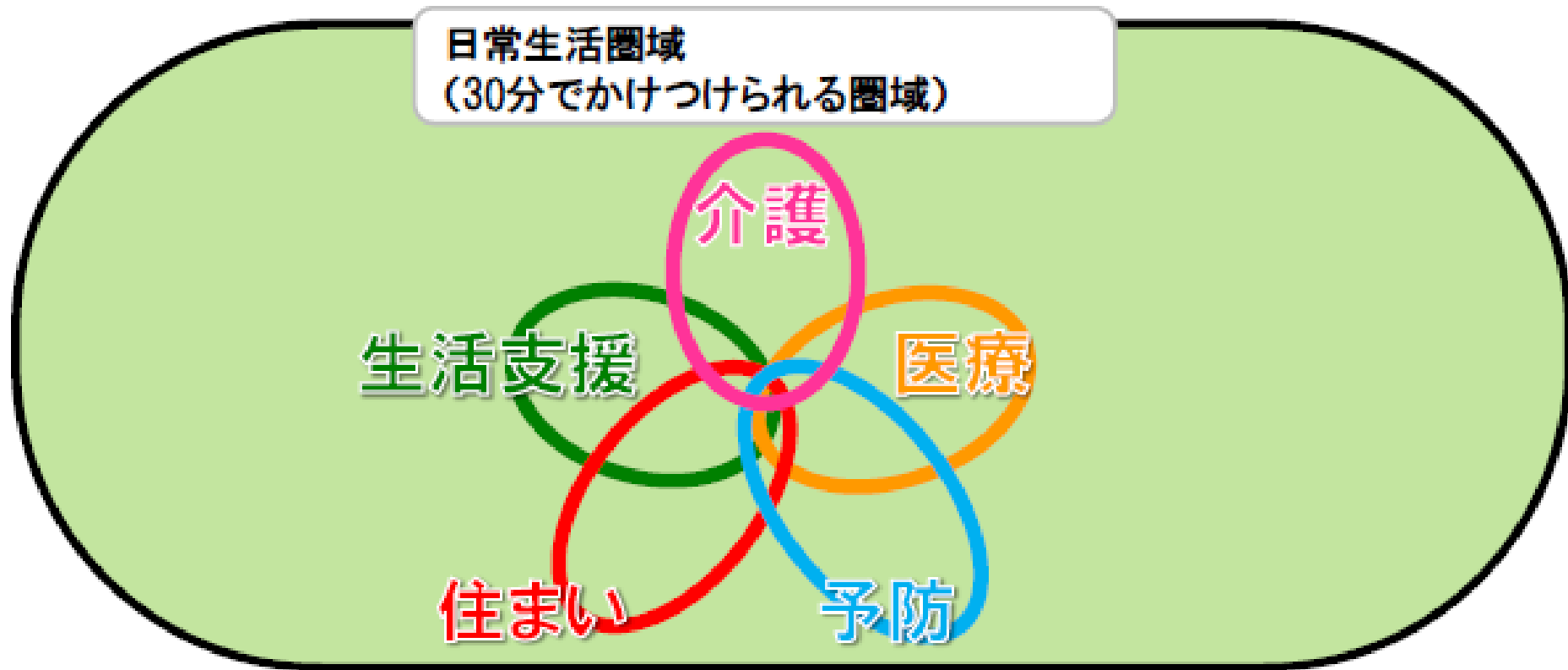
生活支援・介護予防

※地域包括ケアは、人口1万人程度の中学校区を単位として想定

- ・地域の病院、拠点病院、回復期病院の役割分担が進み、連携が強化。
- ・発症から入院、回復期、退院までスムーズにいくことにより早期の社会復帰が可能に

※数字は、現状は2012年度、目標は2025年度のもの

厚生労働省の地域包括ケア



日常生活圏域 = 30分で駆けつけられる

地域包括ケア・官僚の本音(?)

私が住んでいる十勝は、人間よりも牛や鶏の方が多い農村地帯です。国がすすめる地域包括ケアが実践しにくい過疎地が多いのですが、今後、地域ケアをどのように構築すべきでしょうか、ご教示ください。(質問:笠松)



講演の5日前まで厚生労働省
老健局長(介護保険実務のトップ)だった宮島俊彦氏

そもそも「地域包括ケア」は、今後高齢者が急激に増える大都市圏を想定したものである。当然、「30分以内で駆けつけられる・・・」が成り立つ。私のイメージはヨーロッパの城塞都市だ。城壁で囲まれた中に住み、そこから農地に通う。効率が良いと福祉は充実するのだ。

十勝のように分散した家を一軒一軒訪問してサービス提供していたら、無駄が生じるのは当たり前。

過疎地では、高齢者は可能な限り町の中心部に移り住んでいただく。サービス付高齢者住宅はそのモデルだ。特養・老健など介護施設を核に、住宅や介護サービス事業所を集約させ福祉ゾーンを形成する。

これらの施策は行政がすすめるので、君たちケアマネがそこまで心配しなくても良い。

(2012.9.15:札幌・北海道介護支援専門員協会「ケアマネジャー実践セミナー」にて)

キーマンは ケアマネと訪問看護師

～原勝則老健局長(シルバー産業新聞 2013.1.10)

地域包括ケアシステムの中における医療と介護の連携は、私個人の見解としては住民に最も身近な市町村にもっと積極的に医療に関わっていただくのが一つの方向だと考えています。

介護支援専門員が果たす役割も重要です。私は多職種協働を円滑に進めるキーマンは介護分野では介護支援専門員、医療分野は訪問看護師だと思います。そうした人たちがハブとなり周辺の職種をつないでいく。

介護支援専門員にまず求められるのは、医療の専門的な知識ではなく、医療分野の人々との人間関係づくりなのです。

ただ個々人の力だけでは難しいので、市町村がそれをバックアップする。

例えば介護支援専門員と訪問看護師が十分に話し合える場面をつくる。

一度顔を合わせれば、医療職の敷居も低くなります。顔が見える関係になり、その後信頼できる関係になれば、医療と介護の連携は進むのではないのでしょうか。



保健・医療・介護の連携

顔が見える、心が通じる連携



(2009年: 笠松信幸)

北海道十勝地方

大雪山系

白糠丘陵

日高山脈



太平洋

- 1市16町2村、東京都の5倍、新潟県、秋田県とほぼ同じ面積
- 人口35万2千人
7割が帯広市周辺に集中、高齢化率 24.7%、郊外は広大な過疎地
- 基幹産業は農業
食料自給率1100%
(約400万人分を生産)

住みやすくて良いところ なのですが ...

十勝の医療・介護の現状

■「地域包括ケア」の適用が困難。

- ・人口密度が低く、広域で居住地が分散。
- ・郡部が生活を支える機能を失いつつある（コミュニティーの機能低下）。

■在宅医療に取り組む医師・訪問看護STが少ない。24時間365日体制・緊急対応が困難。

■「病院で死にたい」と願う文化、在宅終末期ケアの普及がおくれている。

■地域連携のネットワークが未確立。



「十勝連携の会」ができるまで

■帯広市介護支援専門員連絡協議会（2004年～）
ケアマネジャーの自主組織。会員220名。

■主治医との連携を重視。
医療連携フォームを開発し
2008年よりWebに掲載。
ケアマネが医療機関と積
極的に情報交換することを
奨励してきた。

■2009年、MSW協会から
連携アンケートの依頼。
2010年、OT協会より意見交換会の申し入れ。



処理法開発

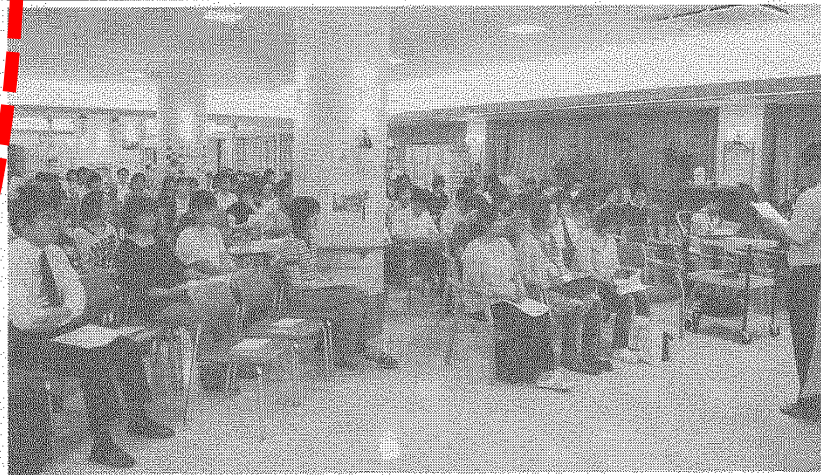
〔厚院長・百二十六床〕の田中良医療技術部長(診除去し、ゆがみのない鮮明な画像を得られる新ウエアの無料配布をはじめた。

を除去

会長 慈路三 田中 部 長

ア無料提供

〔で活用してほしい〕と、軽に申し出てほしい(田間企業に特許権を譲渡中部長と呼びかけてい、ソフトの無償提供をはじめた。ガンマカメラ有している医療機関は内百施設ほどあり、気問い合わせは釧路三慈会病院☎0154(41)2299。



平日の夜に150人余が参加した意見交換会

生活保障のあ

9月に社会

医療と介護の連携促進へ 専門性アピール

道MSW 初の意見交換会

道医療ソーシャルワーカー協会東支部は、「医療と介護をつなぐ地域連携―意見交換会」を帯広市で初めて開催。MSW、OT、ケアマネジャーの三人が連携促進へ、自らの専門性をアピールするとともに情報共有化、連携モデル構築推進などを訴えた。

道医療ソーシャルワーカー協会東支部は、「医療と介護をつなぐ地域連携―意見交換会」を帯広市で初めて開催。MSW、OT、ケアマネジャーの三人が連携促進へ、自らの専門性をアピールするとともに情報共有化、連携モデル構築推進などを訴えた。

道医療ソーシャルワーカー協会東支部は、「医療と介護をつなぐ地域連携―意見交換会」を帯広市で初めて開催。MSW、OT、ケアマネジャーの三人が連携促進へ、自らの専門性をアピールするとともに情報共有化、連携モデル構築推進などを訴えた。

道医療ソーシャルワーカー協会東支部は、「医療と介護をつなぐ地域連携―意見交換会」を帯広市で初めて開催。MSW、OT、ケアマネジャーの三人が連携促進へ、自らの専門性をアピールするとともに情報共有化、連携モデル構築推進などを訴えた。

臨床教育を展

リハ学校協会 来月18

開西病院医療相談室の川村智子MSWは、医療機関とケアマネジャーの連携状況を把握するため、市内ケアマネジャー

の三人が連携促進へ、自らの専門性をアピールするとともに情報共有化、連携モデル構築推進などを訴えた。

道医療ソーシャルワーカー協会東支部は、「医療と介護をつなぐ地域連携―意見交換会」を帯広市で初めて開催。MSW、OT、ケアマネジャーの三人が連携促進へ、自らの専門性をアピールするとともに情報共有化、連携モデル構築推進などを訴えた。

道医療ソーシャルワーカー協会東支部は、「医療と介護をつなぐ地域連携―意見交換会」を帯広市で初めて開催。MSW、OT、ケアマネジャーの三人が連携促進へ、自らの専門性をアピールするとともに情報共有化、連携モデル構築推進などを訴えた。

道医療ソーシャルワーカー協会東支部は、「医療と介護をつなぐ地域連携―意見交換会」を帯広市で初めて開催。MSW、OT、ケアマネジャーの三人が連携促進へ、自らの専門性をアピールするとともに情報共有化、連携モデル構築推進などを訴えた。

「十勝連携の会」 誕生

■ 結成 <2010年7月14日>

十勝における保健・医療・福祉・介護などの連携課題を明らかにし、より一層の地域連携を促進していくことで、地域で生活する人々の健康・福祉の増進とQOLの向上を図り、誰もが安心して住みやすい地域づくりを目指すことを目的とする。

■ 事業

保健・医療・福祉・介護などの関係職種による地域連携懇談会、地域連携に関わる研修会及び講演会の開催 他

■ メンバー

医師、歯科医師、リハビリ技士（PT・OT）、MSW、ケアマネ、薬剤師、看護師、介護士、栄養士、地域包括支援C・保健所・市役所職員など



十勝連携の会

トップ

十勝連携の会紹介

イベント情報

リンク

お問い合わせ

書庫

更新日付
平成25年2月7日



更新情報

NEW

十勝連携の会とは 会則 幹事会



幹事会

	氏名	所属	職種
代表	高杉 美紀	医療法人社団博愛会ボシブル事業部	社会福祉士
	阿部 郁代	おとふけホームケアクリニック	医師
幹事	荒 浩美	医療法人社団博愛会 開西病院在宅ケアセンター	介護支援専門員
	笠松 信幸	十勝勤医協老人保健施設 ケアセンター白樺	社会福祉士 介護支援専門員
	金元 信子	JA北海道厚生連 帯広厚生病院	看護師
	今野 智子	医療法人社団博愛会 介護老人保健施設あかしや	社会福祉士
	黒柳 弘美	北海道帯広保健所	保健師
	後藤 和子	JA北海道厚生連 帯広厚生病院	看護師 介護支援専門員
	佐伯 裕一	帯広市役所	保健師
	佐藤 夏子	医療法人社団羅館新得診療所	医師
	佐土根 朗	社会医療法人北斗 北斗病院	医師
	須貝 裕一	医療法人社団刀圭会 協立病院	作業療法士
	外山 史教	医療法人社団博愛会 介護老人保健施設ウィラかいせい	社会福祉士 介護支援専門員
	田中 裕子	北海道帯広保健所	保健師
	谷田 憲俊	社会医療法人北斗 北斗病院	医師
	田巻 憲史	社会福祉法人 北海道社会事業協会帯広病院	社会福祉士 精神保健福祉士
	村上 あゆみ	医療法人十勝勤労者医療協会 ヘルパーステーション白樺	介護福祉士
	柳澤 英明	社会医療法人北斗 訪問リハビリテーションさくら	理学療法士
	渡辺 こづ江	地域包括支援センター愛仁園	保健師 介護支援専門員

「十勝連携の会」のあゆみ

2010年 7月 「連携を考える研修会」

(ケアマネ連協、MSW協会、OT協会が共同開催)

※医療・介護関係者が160人も参加、高い関心

2010年11月 第2回研修会

急性期からの退院後をめぐる連携の在り方

～それぞれの立場から～ 7職種のシンポジウム

※「顔が見える情報交換の場がほしい」の声

2011年 2月 第3回研修会

困難事例からどのような支援ができるか考えよう！

～各職種の視点を学ぶ～ グループワーク

※職種の専門性の相互理解のきっかけに



介護新聞

北見・網走、釧路、函館、札幌などで、医療・介護の地域連携が活発化しているが、十勝でも本格的な取り組みが始まった。4日に帯広市で開かれた、十勝連携の会主催の研修会には、管内の医療・介護職ら約180人が参加。「急性期からの退院をめぐる連携のあり方」をテーマにスムーズな連携のとり方についてディスカッションが繰り広げられた。

十勝でも医療・介護連携本格化

同会は、十勝管内の保健医療福祉職の自主グループとして今夏発足。「十むすの会」と愛称もつけられ、「切れ目のない医療・介護サービスの提供」を目指している。

設立の背景には、急性期病院の在院日数短縮化がある。治療後すぐ地域や在宅に戻り、十分な情報共有がないまま療養生活を送らざるを得ないケースが増加。そうした患者を医療・介護連携により支援するのが目的だ。四日の研修会では、急

専門職の自主グループ「十むすの会」

「退院後の連携」テーマに研修会



4日、帯広グリーンラザで開かれた研修会

性期病院のMSW・セラピスト、家族、訪問看護士、介護支援事業所ケアマネ、老健施設MSW、在宅医療の医師がそれぞれの立場から現状を報告し、スムーズな連携への課題、提言を行った。

関西病院の川村智子MSWは、退院支援について「本人と家族と病院側の意向が異なると、間にやり取りすることもある。退院支援は外来・入院時から始まっている」と指摘。施設で保健師を務める

180人が参加し意

北海道発信の現場ニュース
中央情勢もタイムリーに

情報提供等や購読
申し込みは
TEL011(221)7777
FAX011(281)2678
Eメール kargo@medim.co.jp

は。声のかけ方には気を付けてくださいと指摘。佐藤陽美苦小牧警察署生活安全係長は「行方不明に気づいた時には初動が大切。重要で

同協会会長の宮崎直

渡辺こころ
性期から
に当た

福祉 >>> ~Life~ 水曜ライフ

健康 >>> 月

木 >>> 1

在宅ケア向上へ 医療と介護：意見交換 十勝連携の会第3回研修会

医療と介護が連携し、利用者が

に対し切れ目なく良質な在宅ケアを提供するための自主グループ「十勝連携の会」愛称・十(てん)むすの会(代表・高杉美紀医療法人社団博愛会経営企画部係長)はこのほど、とかちプラザで「第3回研修会」を開いた。グループワークを通じて互いの仕事について理解を深め

た。

約145人が参加。高杉代表は「たくさん交流を深めて顔の見える連携の第一歩となれば」とあいさつ。北斗クリニックの山下浩介院長が、アルコール依存症、糖尿病、慢性腎臓病(すい)炎を患う70歳代男性の事例を紹介。参加者は18グループ(1グループ8人)に分かれて①自分ならどのような支援ができるか②そのためどのような情報が必要か③自分はどんな情報が提供できるかを話し合った。

同会の笠松信幸幹事(老人保健施設ケアセンター白樺理事・事務長)は「自分の知らない職種の人と意見交換すること、患者や利用者に対応するときにいいアイデアが生まれば」と期待していた。

同会は十勝管内の保健、医療、福祉、介護に関わる職員らが昨年7月に発足。連携不足が指摘される医療と介護の現状を改善するため、研修会などを通じ顔の見える関係づくりを目指している。



事例検討を行う参加者

(山崎大和)

「十勝連携の会」のあゆみ

2011年 6月 第4回研修会

退院充実宣言 ほら♪そこに退院サポート

～〇〇病院〇病棟の試み～

急性期病院看護師からの実践報告とGW

※病院の看護師さんも悩んで工夫しているんだ

2011年10月 第5回研修会

〇〇さんの人生を支えるために

みんなどんな情報が欲しいか教えて！

～職種別GWで共有化を図ろう～

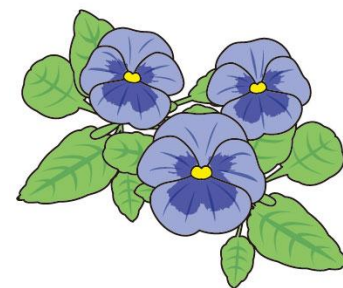
※みんなが理解できる共通言語って？

2012年 4月 第6回研修会

Yさんの想いをかなえるために

～あなたならどうしますか？ 急性期からの退院後
をめぐる連携の在り方～

※目指すところは同じでもそこに達する道が違う、しかしそれで良い！



研修会のお知らせ

十むすの会は、平成22年8月に発足し、2年半ほど活動を継続してきました。

今回は、急性期病棟に入院している医療依存度の高い方が退院する場合に、生活の場で病院のような医療ケアの提供がどの程度必要であり、対応可能なのか、本人が望む生活の実現ができるのかという、医療と生活の優先度の判断の下、本人らしい暮らしを支えるための多職種による連携をテーマにしています。

今回の研修会では連携のコーディネート、「在宅移行支援」の先進的な取り組みを知り、十勝での多職種による連携について、参加者のみなさんと一緒に考えたいと思います。みんなで知恵を出し合いましょう！

日 時；平成25年3月6日（水）

18：00～受付

18：30～開始

講師紹介は、別紙を
見てください☆

【講演】

「退院までのプロセスを分解し、効果的な支援・連携を考える
～退院時カンファレンスは、医療・ケアのバトンタッチの場～」
在宅ケア移行支援研修所 所長 宇都宮 宏子 氏（京都府）

【GW】 テーマ「多職種カンファレンスから考える退院時の連携」

デモンストレーション「退院時カンファレンス」

GW「私だったらこれも検討したい！」

報告・助言

21：00～終了

場 所；とかち館孔雀の間（帯広市西7条南6丁目2番地）

※会場の地図は別紙をご覧ください。

対 象 者；保健医療福祉介護関係機関、関係団体に所属する職の方々

締め切り；平成25年2月27日（水）

2つのターニングポイント

■「第20回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会inとかち」(2012.9.8～9)

- ・**地域連携のシンポジウム**を担当した。

■「**北海道医療連携推進事業**(医療と介護の連携推進事業)」(2012～14年度)

- ・十勝の受託団体に選定された(2012年8月)。



転換点①:シンポジウム

2012年 9月 日本ホスピス・在宅ケア研究会

全国大会(第20回)inとかち

シンポジウム『家で暮らしたい』をささえる連携
～ 医療・介護・福祉から ～



シンポジウムがもたらしたもの

- 全国学会の場を借りて、十勝の**在宅ケアの
実践課題**を発表し意見交換できた。

医師（訪問診療）、看護師（訪問看護）、ヘルパー（訪問介護）、リハ技士（訪問リハ）、MSW（病院）、ケアマネ（居宅介護支援）

問題意識の共有

- 「**医療と介護の新たな連携ルール**」が現実の課題になった。

課題の明確化

転換点②: 医療連携推進事業受託

■ **3年間** (2012～2014年度) 年93万円補助

→ **目標と期限**が明確になった

■ ミッション

- ・十勝の医療介護機能の実情把握、分析・共有
- ・退院支援、療養生活支援、急変時対応、看取り支援
など**在宅ケアに必要な医療介護機能**の分析検討
- ・**連携に必要な情報、ルール、意識づくり**の検討
- ・2012年度---準備期、諸団体との**合意形成**
- ・2013年度---**連携ツール等の作成・試行**
- ・2014年度---**連携システムの試験運用**と評価
- ・取り組みで明らかになった課題を**行政に提言**
- ・広く**住民**、関係者に**情報伝達** (Web等の活用など)



連携構築：今年度の活動

■ 関係諸団体との合意形成

- ・ 職能団体（医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、社会福祉士会、介護福祉士会等）
- ・ 自治体、自治体病院、基幹病院



■ 地域意見交換会（2013年2月）の開催

- ・ 関係機関、団体が互いの取り組み課題を共有する。
- ・ 医療・介護の機能と連携体制について意見交換する。

地域意見交換会(2013.2.6)



■30団体が出席(医師会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、社会福祉士会、介護福祉士会等の職能団体、介護サービス事業所、自治体、在宅医療担当医師など)

医療・介護連携の課題共有



十勝連携の会
は、十勝管内保
健康・福祉増進と住民
自主グループ
として、二十二
年七月に発足。
「てんむすの会」
の愛称で医師や
看護師、薬剤師、
リハビリスタ
フ、MSWから
各団体が連携
に向けた現状の
課題を報告した

意見交換会を主催し、十勝管内で十勝型二連携づくりを目的として活動している十勝連携の会代表・高杉美紀博愛会ボシフル事業部部長。各機関の垣根を越えて、地域

管内30団体参加

「顔の見えるつながり」構築へ

健康・福祉増進と住民自主グループとして、二十二年七月に発足。誰かが安心して住みやすい地域づくりを目的として、医師や看護師、薬剤師、リハビリスタッフ、MSWから各団体が連携に向けた現状の課題を報告した。九月に行われた第

道補助事業活用

いること報告。そのほか、他職種との連携不足、専門職の偏在、在宅療養での医師サポートの不足など、地域的事情や、医療・介護の役割、交換の機会、能とサービス

メーリングリスト開設など新たに提案

務であり、地域で活躍しているスタッフが不足している現状を報告。他職種や地域が求める情報・提携手段を、理療士が把握し切れていないと話した。地域包括支援センター愛仁園の渡辺こと江、保健師は、帯広市介護支援専門員連絡協議会では入退院時の情報や取りや医師との連携、介護保険サービス外のインフォーマルサービスを提供しているメンバーとの調整情報共有が課題になって

「十勝連携の会」が意見交換会

道は二十四年度から地域医療連携推進事業を展開。現在の同事業を活用し医療と介護の連携に取り組むのは十五圏域・十六団体に及ぶが、十勝圏域でも三十の保健・医療・福祉・介護関係機関、職能団体が参加し意見交換会が開かれた。それぞれの活動における課題を通して、地域の表情に合った「顔の見える」つながり構築に向け、メーリングリスト開設など新たな提案も出された。

介護新聞

2013年 2月14日 毎週木曜日発行
(平成25年) 年間購読料: 12,000円
(前納、税・送料込)
発行所 株式会社 北海道医療新聞社
〒060-0042 札幌市中央区大通西6丁目(北海道医師会館)
☎011(221)7777 ホームページ <http://www.medim.co.jp>

長崎の認知症GH 火災受け厚労省

防火安全体制徹底・点検を要請 スプリングカラー設置 基準見直し向け検討も

厚生労働省は九日、長崎市内の認知症グループホームで八日夜発生した火災を受け、都道府県や政令市、中核市に認知症GHの防火安全体制徹底・点検を求めて事務連絡した。認知症GHの火災は、十八年一月に長崎県大村市、二十二年三月に札幌市北区で発生。この火災では入居者四人が死亡。事務連

確実な設置」を点検するよう要請した。点検項目として「非常災害対策の適切な実施」では①具体的な計画策定②関係機関への通報・連携体制構築③①と②の定期的な従業者への周知状況④定期的な避難訓練実施⑤を提示。地域住民等との連携では、運営推進会議を活用した地域住民との連携体制確保など、訓練実施に協力を得られる体制づくり、消防関係者が参加し具体的な指示を仰ぐなど、効果的な訓練実施の確保を呼びかけた。「消防法等に規定された設備の確実な設置」では、スプリングカラー等設置義務のある施設は、厚労省が省と協議し、二百七十五平方メートル以上の認知症GHも補助

「介護新聞」
(2013.2.14)

出された意見・課題

- 連携が必要な時代になった。これからは一緒にすすめて行こう。(医師会)
- 口腔嚥下ケアの観点から、介護との連携は重点課題。チェックシートをつくった。(歯科医師会)
- 薬剤師もどんどん在宅に出て行く。(薬剤師会)
- 連携の要の役割を担いたい。(看護協会)
- 医療と介護の連携強化は最重要課題。しっかりサポートしていきたい。(保健所)
- お薬手帳のように、関係者が情報共有できる連携ツールや、情報交換ツール(メーリングリスト等)をつくらう。(在宅医療担当医師)

第8回研修会(2013.3.6)



■「退院に向けた効果的な支援・連携」(宇都宮宏子氏) 200人参加。
21Gに分かれて多職種カンファ。



効果的支援・連携探る

勝会

退院調整テーマに研修会 十連携の

十勝連携の会(十むすの会)は六日、帯広市内で第八回研修会を開催した。写真は「写真」。今回は、十勝圏域で医療と介護の連携に取り組む三十の関係機関・職能団体が参加し、意見交換会で出された課題を受けてテーマを設定。「退院までのプロセスを分解し、効果的な支援・連携を考える」と題し、在宅ケア移行支援研究所の宇都宮宏子所長が講演した。

宇都宮所長は、退院前カンファレンスの重要性を解説。退院調整看護師としての実践を



踏まえ、「患者は生活者であり、入院はあくまで通過点」とし、「退院支援カンファレンスでは、点としての情報を共有することが大切」と指摘。

その上で「退院支援は入院と同時に始ま

り、患者の思いを軸にすることをぶれないようにしてほしい」「病棟と退院調整看護師・医療ソーシャルワーカーがカンファレンスして退院支援計画を立案、退院後の生活は患者・家族とともに相談・構築すべき」などとアドバイスした。

研修会には管内の医療機関看護職、行政職員、居宅ケアマネら二百三十人が参加。宇都宮所長の講演を受け、二十一グループに分かれてグループワーク「多職種カンファレンスから考える退院の連携」を行い、自宅で暮らせるための課題と退院調整のあり方について意見を出し合った。

地域連携パスは介護・在宅まで

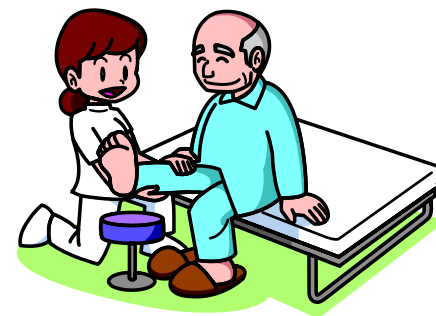
■脳卒中地域連携パス

・2012年8月、従来の急性期病院→回復期病院の連携に加え、維持期施設（老健等）にもパスがつながり、医療から介護施設・在宅まで切れ目のない連携が実現した。

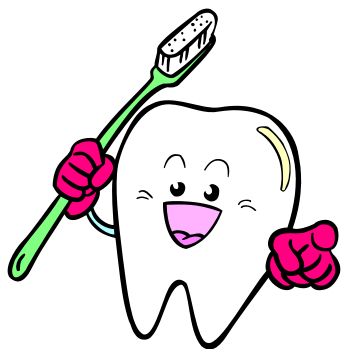
■大腿骨近位部骨折地域連携パス

・2011年春、準備段階から維持期（老健）・在宅を意識してパス設計。介護報酬改定に対応。

2012年4月からパス退院患者の入所で「地域連携診療計画情報提供加算（300単位）」が算定可能になった。



歯科（口腔嚥下ケア）連携



お口の課題チェック票

対象者氏名： _____ 性別：男・女 年齢： _____ 歳

住所： _____ 電話番号： _____

紹介者氏名： _____ 所属： _____

電話番号： _____

お口の中に関すること

- | | |
|--|---|
| ☐ 痛いところがあるようだ | ☐ 歯が抜けたままのところがある |
| ☐ 口臭がする | ☐ 入れ歯を使用していないようだ |
| ☐ 歯や入れ歯に汚れが見受けられる | ☐ 入れ歯が合っていないようだ |
| ☐ むせがある | ☐ しばらく歯科受診していない |
| ☐ 飲み込みにくいようだ | ☐ その他（ _____ ） |

その他伝えておきたいことなど

--

食に関すること

1	最近3カ月間に、食事量が減少しましたか？ a. 著しい食事量の減少 b. 中程度の食事量の減少 c. 食事量の減少なし
2	最近3カ月間に、食事にかかる時間は長くなりましたか？ a. 長くなった（ _____ 分程度延長） b. 短くなった c. 変化なし
3	最近1年間に、窒息しかかった経験はありますか？ a. あり（具体的に： _____ ） b. なし
4	最近3カ月間に、体重の減少がありましたか？ a. 3kg以上の減少 b. 1～3kg未満の減少 c. 減少なし
5	最近1年間に、肺炎が原因で入院したことがありますか？ a. 繰り返しあり b. 1～2回あり c. なし
6	最近1年間の発熱の既往（頻度）はどの程度ですか？ a. 月に1～2回 b. 月に数回 c. 年に数回 d. なし

【連絡先】十勝歯科医師会在宅歯科医療連携室 受付時間 月曜日～金曜日 9:00～17:00
電 話(0155)25-2172 ファックス(0155)22-8024

十勝歯科医師会
との
コラボレーション



連携の会 がめざすもの

■保健・医療・介護・福祉の 十勝型地域連携システムの確立

安心して住み
続けられる
地域づくり

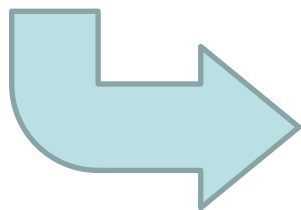
■住民参加

- ★住民が知る。
- ★住民が選択できる。
- ★住民が適切に活用できる。
- ★住民と専門職が互いにエンパワー
され、地域に波及する(地域が変わる)。



十勝で実践していること

- 地域の**実情**に応じた**連携**をつくる。
(実情把握、リサーチ、情報交換)
- 行政(保健所・市役所)と**連携**する。
- 一緒に**活動**する**仲間**を増やす。
(**顔が見える**、**心が通じる**連携)



無差別・平等の医療・福祉、安心して住み続けられるまちづくり
医療法人十勝勤労者医療協会
老人保健施設ケアセンター白樺

理事・事務長
笠松 信幸
社会福祉士、主任介護支援専門員
認知症キャラバン・メイト

〒080-0051 北海道帯広市白樺16条西2丁目
facebook 電話:0155-41-1165 FAX. 0155-41-1161
E-mail: kasamatsu@tokachi-kin-ikyo.or.jp

- 連携ツールの一例
「顔写真入り名刺」
(国立長寿医療センター総括診療部
長:遠藤英俊Dr推奨)

新年度(H25年)の活動

※3月13日、幹事会で申し合わせた活動方針

■十勝の医療・介護機能の実情把握

→ 意見交換会(10月)

■退院支援・在宅支援の情報交換

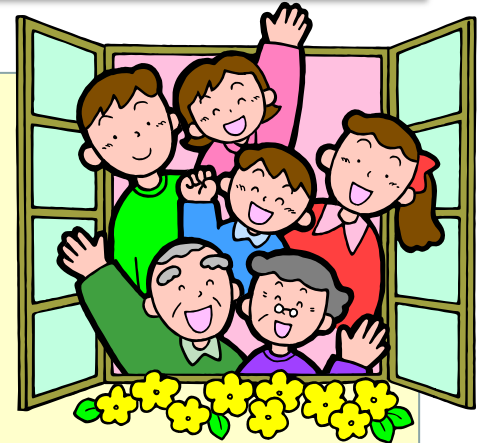
→ 研修会(8月、1月)

■てんむすサロン → (6月、9月、12月、3月)

■連携ツールの開発 → 「連携手帳」(フォーム)

■在宅療養介護支援 → 『看取りの作法(仮題)』出版

■情報発信 → ホームページ、Facebook



Facebook 十勝連携の会

← → ↺ ⌂ <https://www.facebook.com/pages/十勝連携の会てんむす/540806259292373> 🔍 ☆ ☰

My Yahoo! iCloud Facebook Dropbox 職能団体 行政機関 報道機関 本・宿・切符 民医連リンク アメダス・帯広 UTL 駅探 - 乗り換え案内

facebook 32 友達、スポット等を検索 🔍 笠松 信幸 ご意見・ご提案 ホーム 設定

十勝連携の会（てんむす）として、コメント、「いいね!」、投稿をしています — 笠松 信幸に切り替える



十勝連携の会（てんむす）

いいね! 4人

地域団体
北海道十勝の保健・医療・福祉・介護の地域連携をすすめる団体

基本データ

写真 4 いいね!

広告マネージャ
十勝連携の会（てんむす）
北海道十勝の保健・医療・福祉・介護の地域連携をすすめる団体
いいね!・笠松 信幸さんが「いいね!」と言っています。
広告でいいね! 数を増やす

ハイライト ▾

近況 写真・動画 イベント、大事な出来事など

何か書く...

投稿

3人 友達
が十勝連携の会（てんむす）について「いいね!」と言っています



現在
2013年
設立

チャット (30)

ご清聴有り難うございました

